

組織目標評価報告書（令和3年度）

部局名:

大学院医歯薬学総合研究科 医学系

部局長名:

伊達 勲

目標・取組	目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)							
①教育領域								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 45%; text-align: center;">目標・取組</th> <th style="width: 55%; text-align: center;">目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 45%; text-align: center;">関連する 年度計画の番号</th> <th style="width: 55%; text-align: center;">教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</th> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 国際社会・地域社会でリーダー的存在となる人材の育成のため、教育のグローバル化、リカレント教育を推進する。学位プログラムへの移行のため、医歯薬学総合研究科改組WGで引き続き検討し、教養分限の原則に基づいたプログラムを作成する。 ① 教育プログラム改革:【博士課程4専攻】専攻を1つにまとめ、学位プログラムとして医学博士プログラム・歯学博士プログラム・薬学博士プログラムを設定、その下に7つ程度のサブプログラムを置き、充実させる。 ② Society 5.0時代の人材育成: 東北大・北大と共同で獲得した「Global X Localな医療課題解決を目指した最先端AI研究開発」では研究科としてAI関係の人材育成を、文部科学省の「感染症医療人材養成事業」では研究科附属の医療教育センターが中心となってシミュレーション教育を用いた人材育成を行う。 ③ AIを用いた英語翻訳の講義への応用:アフターコロナを見据えて、大学院の講義スライド(日本語記載)をAIで英語に翻訳しスライド映写時に字幕で自動的に流す試みを始める。これによって大学院の講義をグローバルに発信出来るようにする。 </td> <td style="vertical-align: top;"> ① 教育プログラム改革 2023年度からの大学院改組の計画を順調に進め、数回にわたり文部科学省と事務相談を行った。学修者主体の大学院教育を行うため現在の博士課程4専攻を医歯薬学専攻の1専攻とし、学位プログラムとして医学学位プログラム、歯学学位プログラム、薬学学位プログラムを編成する。さらに学修者の多様性の面から4つの選択プログラムを設定する。持続可能な社会と教育を実現するため「共育共創によるプラクティカム」を方策の1つとする。 ② Society 5.0時代の人材育成:『Global X Localな医療課題解決を目指した最先端AI研究開発』人材育成教育拠点(東北大、北大との共同)として大学院博士課程に医療AIコースを設け、7名が博士課程1年目に進学した。またこのコースには1年間で学べるインテンシブコースも設けたが大人気で55名が登録している。研究科附属の医療教育センターでは大学病院と連携し、オンライン教育コンテンツの作成を行っている。7月～8月にかけて大学病院との共催で専門医研修ナビ@WEBを開催し、70名を超える参加者を得た。7月には医学部進学希望の高校生を対象とした夏休みメディカルスクールを開講しシミュレーターを用いた医療の実感を体験させ、好評であった。また、新たに「医療面接実習における音声感情解析システムを用いた多方向性フィードバック教育の調査研究」が医学教育振興財団のプロジェクトに採用された。 ③ AIを用いた英語翻訳の講義への応用:マイクロソフトstreamを用いた講義動画の字幕追加編集について、講義への応用が可能となった。日本語で講演してもその内容が英語で字幕となってスライド上で見えるため、大学院の授業の国際化が進む。 </td> </tr> </table> </td> <td style="vertical-align: top;"> ① SDGs達成に向けた研究の取組:事例集第8次改訂版に掲載する取組に59件の応募があり、医歯薬学総合研究科としてSDGs達成へ向けて機運が高まっている。 ② 岡山大学病院とともにがんゲノム医療外来、がん遺伝子パネル検査、特定臨床研究を推進する役割を担った。これらの活動は病院の新医療研究開発センター、バイオバンク、ゲノム医療総合推進センターや研究推進課と連携しつつ行っていく。 ③ 岡山大学は2021年12月20日付けで橋渡し研究支援機関の認定を受けた。学内外から応募のあったシーズA 67件、preB 19件、シーズB 4件、preC 9件、シーズC 1件の計100件を審査し、シーズA 27件、preF 5件、シーズC(a) 3件、シーズC(b) 1件、シーズB・F 5件、の計41件を岡山大学拠点シーズとしてAMEDに公募、ヒアリング等の支援を実施した。 ④ 医療系等研究開発戦略委員会:科研費の応募資格者に対して直接声かけをし応募に導いた。振り返り添削ならびに予備添削を行い、採択率の向上に努めた。共同研究につながるブレインストーミングは8月にオンラインで開催し多くの演題が発表され好評であった。発表は当研究科からだけではなく自然科学研究科、環境生命科学科、保健学研究科など多岐にわたった。 ⑤ 国際共著論文:研究科の業績として国際共著論文が重要であることを教授会や学務委員会で周知し、国際共同研究を促進させるよう努めた。各研究分野の教員の選考の際、国際共著論文数を重要な指標としていることを強調した。国際共同研究を増やすために研究科ホームページのリニューアルにあわせて、英語版の充実を図った。 </td> </tr> </table>	目標・取組	目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 45%; text-align: center;">関連する 年度計画の番号</th> <th style="width: 55%; text-align: center;">教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</th> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 国際社会・地域社会でリーダー的存在となる人材の育成のため、教育のグローバル化、リカレント教育を推進する。学位プログラムへの移行のため、医歯薬学総合研究科改組WGで引き続き検討し、教養分限の原則に基づいたプログラムを作成する。 ① 教育プログラム改革:【博士課程4専攻】専攻を1つにまとめ、学位プログラムとして医学博士プログラム・歯学博士プログラム・薬学博士プログラムを設定、その下に7つ程度のサブプログラムを置き、充実させる。 ② Society 5.0時代の人材育成: 東北大・北大と共同で獲得した「Global X Localな医療課題解決を目指した最先端AI研究開発」では研究科としてAI関係の人材育成を、文部科学省の「感染症医療人材養成事業」では研究科附属の医療教育センターが中心となってシミュレーション教育を用いた人材育成を行う。 ③ AIを用いた英語翻訳の講義への応用:アフターコロナを見据えて、大学院の講義スライド(日本語記載)をAIで英語に翻訳しスライド映写時に字幕で自動的に流す試みを始める。これによって大学院の講義をグローバルに発信出来るようにする。 </td> <td style="vertical-align: top;"> ① 教育プログラム改革 2023年度からの大学院改組の計画を順調に進め、数回にわたり文部科学省と事務相談を行った。学修者主体の大学院教育を行うため現在の博士課程4専攻を医歯薬学専攻の1専攻とし、学位プログラムとして医学学位プログラム、歯学学位プログラム、薬学学位プログラムを編成する。さらに学修者の多様性の面から4つの選択プログラムを設定する。持続可能な社会と教育を実現するため「共育共創によるプラクティカム」を方策の1つとする。 ② Society 5.0時代の人材育成:『Global X Localな医療課題解決を目指した最先端AI研究開発』人材育成教育拠点(東北大、北大との共同)として大学院博士課程に医療AIコースを設け、7名が博士課程1年目に進学した。またこのコースには1年間で学べるインテンシブコースも設けたが大人気で55名が登録している。研究科附属の医療教育センターでは大学病院と連携し、オンライン教育コンテンツの作成を行っている。7月～8月にかけて大学病院との共催で専門医研修ナビ@WEBを開催し、70名を超える参加者を得た。7月には医学部進学希望の高校生を対象とした夏休みメディカルスクールを開講しシミュレーターを用いた医療の実感を体験させ、好評であった。また、新たに「医療面接実習における音声感情解析システムを用いた多方向性フィードバック教育の調査研究」が医学教育振興財団のプロジェクトに採用された。 ③ AIを用いた英語翻訳の講義への応用:マイクロソフトstreamを用いた講義動画の字幕追加編集について、講義への応用が可能となった。日本語で講演してもその内容が英語で字幕となってスライド上で見えるため、大学院の授業の国際化が進む。 </td> </tr> </table>	関連する 年度計画の番号	教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等	国際社会・地域社会でリーダー的存在となる人材の育成のため、教育のグローバル化、リカレント教育を推進する。学位プログラムへの移行のため、医歯薬学総合研究科改組WGで引き続き検討し、教養分限の原則に基づいたプログラムを作成する。 ① 教育プログラム改革:【博士課程4専攻】専攻を1つにまとめ、学位プログラムとして医学博士プログラム・歯学博士プログラム・薬学博士プログラムを設定、その下に7つ程度のサブプログラムを置き、充実させる。 ② Society 5.0時代の人材育成: 東北大・北大と共同で獲得した「Global X Localな医療課題解決を目指した最先端AI研究開発」では研究科としてAI関係の人材育成を、文部科学省の「感染症医療人材養成事業」では研究科附属の医療教育センターが中心となってシミュレーション教育を用いた人材育成を行う。 ③ AIを用いた英語翻訳の講義への応用:アフターコロナを見据えて、大学院の講義スライド(日本語記載)をAIで英語に翻訳しスライド映写時に字幕で自動的に流す試みを始める。これによって大学院の講義をグローバルに発信出来るようにする。	① 教育プログラム改革 2023年度からの大学院改組の計画を順調に進め、数回にわたり文部科学省と事務相談を行った。学修者主体の大学院教育を行うため現在の博士課程4専攻を医歯薬学専攻の1専攻とし、学位プログラムとして医学学位プログラム、歯学学位プログラム、薬学学位プログラムを編成する。さらに学修者の多様性の面から4つの選択プログラムを設定する。持続可能な社会と教育を実現するため「共育共創によるプラクティカム」を方策の1つとする。 ② Society 5.0時代の人材育成:『Global X Localな医療課題解決を目指した最先端AI研究開発』人材育成教育拠点(東北大、北大との共同)として大学院博士課程に医療AIコースを設け、7名が博士課程1年目に進学した。またこのコースには1年間で学べるインテンシブコースも設けたが大人気で55名が登録している。研究科附属の医療教育センターでは大学病院と連携し、オンライン教育コンテンツの作成を行っている。7月～8月にかけて大学病院との共催で専門医研修ナビ@WEBを開催し、70名を超える参加者を得た。7月には医学部進学希望の高校生を対象とした夏休みメディカルスクールを開講しシミュレーターを用いた医療の実感を体験させ、好評であった。また、新たに「医療面接実習における音声感情解析システムを用いた多方向性フィードバック教育の調査研究」が医学教育振興財団のプロジェクトに採用された。 ③ AIを用いた英語翻訳の講義への応用:マイクロソフトstreamを用いた講義動画の字幕追加編集について、講義への応用が可能となった。日本語で講演してもその内容が英語で字幕となってスライド上で見えるため、大学院の授業の国際化が進む。	① SDGs達成に向けた研究の取組:事例集第8次改訂版に掲載する取組に59件の応募があり、医歯薬学総合研究科としてSDGs達成へ向けて機運が高まっている。 ② 岡山大学病院とともにがんゲノム医療外来、がん遺伝子パネル検査、特定臨床研究を推進する役割を担った。これらの活動は病院の新医療研究開発センター、バイオバンク、ゲノム医療総合推進センターや研究推進課と連携しつつ行っていく。 ③ 岡山大学は2021年12月20日付けで橋渡し研究支援機関の認定を受けた。学内外から応募のあったシーズA 67件、preB 19件、シーズB 4件、preC 9件、シーズC 1件の計100件を審査し、シーズA 27件、preF 5件、シーズC(a) 3件、シーズC(b) 1件、シーズB・F 5件、の計41件を岡山大学拠点シーズとしてAMEDに公募、ヒアリング等の支援を実施した。 ④ 医療系等研究開発戦略委員会:科研費の応募資格者に対して直接声かけをし応募に導いた。振り返り添削ならびに予備添削を行い、採択率の向上に努めた。共同研究につながるブレインストーミングは8月にオンラインで開催し多くの演題が発表され好評であった。発表は当研究科からだけではなく自然科学研究科、環境生命科学科、保健学研究科など多岐にわたった。 ⑤ 国際共著論文:研究科の業績として国際共著論文が重要であることを教授会や学務委員会で周知し、国際共同研究を促進させるよう努めた。各研究分野の教員の選考の際、国際共著論文数を重要な指標としていることを強調した。国際共同研究を増やすために研究科ホームページのリニューアルにあわせて、英語版の充実を図った。
目標・取組	目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)							
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 45%; text-align: center;">関連する 年度計画の番号</th> <th style="width: 55%; text-align: center;">教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</th> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 国際社会・地域社会でリーダー的存在となる人材の育成のため、教育のグローバル化、リカレント教育を推進する。学位プログラムへの移行のため、医歯薬学総合研究科改組WGで引き続き検討し、教養分限の原則に基づいたプログラムを作成する。 ① 教育プログラム改革:【博士課程4専攻】専攻を1つにまとめ、学位プログラムとして医学博士プログラム・歯学博士プログラム・薬学博士プログラムを設定、その下に7つ程度のサブプログラムを置き、充実させる。 ② Society 5.0時代の人材育成: 東北大・北大と共同で獲得した「Global X Localな医療課題解決を目指した最先端AI研究開発」では研究科としてAI関係の人材育成を、文部科学省の「感染症医療人材養成事業」では研究科附属の医療教育センターが中心となってシミュレーション教育を用いた人材育成を行う。 ③ AIを用いた英語翻訳の講義への応用:アフターコロナを見据えて、大学院の講義スライド(日本語記載)をAIで英語に翻訳しスライド映写時に字幕で自動的に流す試みを始める。これによって大学院の講義をグローバルに発信出来るようにする。 </td> <td style="vertical-align: top;"> ① 教育プログラム改革 2023年度からの大学院改組の計画を順調に進め、数回にわたり文部科学省と事務相談を行った。学修者主体の大学院教育を行うため現在の博士課程4専攻を医歯薬学専攻の1専攻とし、学位プログラムとして医学学位プログラム、歯学学位プログラム、薬学学位プログラムを編成する。さらに学修者の多様性の面から4つの選択プログラムを設定する。持続可能な社会と教育を実現するため「共育共創によるプラクティカム」を方策の1つとする。 ② Society 5.0時代の人材育成:『Global X Localな医療課題解決を目指した最先端AI研究開発』人材育成教育拠点(東北大、北大との共同)として大学院博士課程に医療AIコースを設け、7名が博士課程1年目に進学した。またこのコースには1年間で学べるインテンシブコースも設けたが大人気で55名が登録している。研究科附属の医療教育センターでは大学病院と連携し、オンライン教育コンテンツの作成を行っている。7月～8月にかけて大学病院との共催で専門医研修ナビ@WEBを開催し、70名を超える参加者を得た。7月には医学部進学希望の高校生を対象とした夏休みメディカルスクールを開講しシミュレーターを用いた医療の実感を体験させ、好評であった。また、新たに「医療面接実習における音声感情解析システムを用いた多方向性フィードバック教育の調査研究」が医学教育振興財団のプロジェクトに採用された。 ③ AIを用いた英語翻訳の講義への応用:マイクロソフトstreamを用いた講義動画の字幕追加編集について、講義への応用が可能となった。日本語で講演してもその内容が英語で字幕となってスライド上で見えるため、大学院の授業の国際化が進む。 </td> </tr> </table>	関連する 年度計画の番号	教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等	国際社会・地域社会でリーダー的存在となる人材の育成のため、教育のグローバル化、リカレント教育を推進する。学位プログラムへの移行のため、医歯薬学総合研究科改組WGで引き続き検討し、教養分限の原則に基づいたプログラムを作成する。 ① 教育プログラム改革:【博士課程4専攻】専攻を1つにまとめ、学位プログラムとして医学博士プログラム・歯学博士プログラム・薬学博士プログラムを設定、その下に7つ程度のサブプログラムを置き、充実させる。 ② Society 5.0時代の人材育成: 東北大・北大と共同で獲得した「Global X Localな医療課題解決を目指した最先端AI研究開発」では研究科としてAI関係の人材育成を、文部科学省の「感染症医療人材養成事業」では研究科附属の医療教育センターが中心となってシミュレーション教育を用いた人材育成を行う。 ③ AIを用いた英語翻訳の講義への応用:アフターコロナを見据えて、大学院の講義スライド(日本語記載)をAIで英語に翻訳しスライド映写時に字幕で自動的に流す試みを始める。これによって大学院の講義をグローバルに発信出来るようにする。	① 教育プログラム改革 2023年度からの大学院改組の計画を順調に進め、数回にわたり文部科学省と事務相談を行った。学修者主体の大学院教育を行うため現在の博士課程4専攻を医歯薬学専攻の1専攻とし、学位プログラムとして医学学位プログラム、歯学学位プログラム、薬学学位プログラムを編成する。さらに学修者の多様性の面から4つの選択プログラムを設定する。持続可能な社会と教育を実現するため「共育共創によるプラクティカム」を方策の1つとする。 ② Society 5.0時代の人材育成:『Global X Localな医療課題解決を目指した最先端AI研究開発』人材育成教育拠点(東北大、北大との共同)として大学院博士課程に医療AIコースを設け、7名が博士課程1年目に進学した。またこのコースには1年間で学べるインテンシブコースも設けたが大人気で55名が登録している。研究科附属の医療教育センターでは大学病院と連携し、オンライン教育コンテンツの作成を行っている。7月～8月にかけて大学病院との共催で専門医研修ナビ@WEBを開催し、70名を超える参加者を得た。7月には医学部進学希望の高校生を対象とした夏休みメディカルスクールを開講しシミュレーターを用いた医療の実感を体験させ、好評であった。また、新たに「医療面接実習における音声感情解析システムを用いた多方向性フィードバック教育の調査研究」が医学教育振興財団のプロジェクトに採用された。 ③ AIを用いた英語翻訳の講義への応用:マイクロソフトstreamを用いた講義動画の字幕追加編集について、講義への応用が可能となった。日本語で講演してもその内容が英語で字幕となってスライド上で見えるため、大学院の授業の国際化が進む。	① SDGs達成に向けた研究の取組:事例集第8次改訂版に掲載する取組に59件の応募があり、医歯薬学総合研究科としてSDGs達成へ向けて機運が高まっている。 ② 岡山大学病院とともにがんゲノム医療外来、がん遺伝子パネル検査、特定臨床研究を推進する役割を担った。これらの活動は病院の新医療研究開発センター、バイオバンク、ゲノム医療総合推進センターや研究推進課と連携しつつ行っていく。 ③ 岡山大学は2021年12月20日付けで橋渡し研究支援機関の認定を受けた。学内外から応募のあったシーズA 67件、preB 19件、シーズB 4件、preC 9件、シーズC 1件の計100件を審査し、シーズA 27件、preF 5件、シーズC(a) 3件、シーズC(b) 1件、シーズB・F 5件、の計41件を岡山大学拠点シーズとしてAMEDに公募、ヒアリング等の支援を実施した。 ④ 医療系等研究開発戦略委員会:科研費の応募資格者に対して直接声かけをし応募に導いた。振り返り添削ならびに予備添削を行い、採択率の向上に努めた。共同研究につながるブレインストーミングは8月にオンラインで開催し多くの演題が発表され好評であった。発表は当研究科からだけではなく自然科学研究科、環境生命科学科、保健学研究科など多岐にわたった。 ⑤ 国際共著論文:研究科の業績として国際共著論文が重要であることを教授会や学務委員会で周知し、国際共同研究を促進させるよう努めた。各研究分野の教員の選考の際、国際共著論文数を重要な指標としていることを強調した。国際共同研究を増やすために研究科ホームページのリニューアルにあわせて、英語版の充実を図った。			
関連する 年度計画の番号	教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等							
国際社会・地域社会でリーダー的存在となる人材の育成のため、教育のグローバル化、リカレント教育を推進する。学位プログラムへの移行のため、医歯薬学総合研究科改組WGで引き続き検討し、教養分限の原則に基づいたプログラムを作成する。 ① 教育プログラム改革:【博士課程4専攻】専攻を1つにまとめ、学位プログラムとして医学博士プログラム・歯学博士プログラム・薬学博士プログラムを設定、その下に7つ程度のサブプログラムを置き、充実させる。 ② Society 5.0時代の人材育成: 東北大・北大と共同で獲得した「Global X Localな医療課題解決を目指した最先端AI研究開発」では研究科としてAI関係の人材育成を、文部科学省の「感染症医療人材養成事業」では研究科附属の医療教育センターが中心となってシミュレーション教育を用いた人材育成を行う。 ③ AIを用いた英語翻訳の講義への応用:アフターコロナを見据えて、大学院の講義スライド(日本語記載)をAIで英語に翻訳しスライド映写時に字幕で自動的に流す試みを始める。これによって大学院の講義をグローバルに発信出来るようにする。	① 教育プログラム改革 2023年度からの大学院改組の計画を順調に進め、数回にわたり文部科学省と事務相談を行った。学修者主体の大学院教育を行うため現在の博士課程4専攻を医歯薬学専攻の1専攻とし、学位プログラムとして医学学位プログラム、歯学学位プログラム、薬学学位プログラムを編成する。さらに学修者の多様性の面から4つの選択プログラムを設定する。持続可能な社会と教育を実現するため「共育共創によるプラクティカム」を方策の1つとする。 ② Society 5.0時代の人材育成:『Global X Localな医療課題解決を目指した最先端AI研究開発』人材育成教育拠点(東北大、北大との共同)として大学院博士課程に医療AIコースを設け、7名が博士課程1年目に進学した。またこのコースには1年間で学べるインテンシブコースも設けたが大人気で55名が登録している。研究科附属の医療教育センターでは大学病院と連携し、オンライン教育コンテンツの作成を行っている。7月～8月にかけて大学病院との共催で専門医研修ナビ@WEBを開催し、70名を超える参加者を得た。7月には医学部進学希望の高校生を対象とした夏休みメディカルスクールを開講しシミュレーターを用いた医療の実感を体験させ、好評であった。また、新たに「医療面接実習における音声感情解析システムを用いた多方向性フィードバック教育の調査研究」が医学教育振興財団のプロジェクトに採用された。 ③ AIを用いた英語翻訳の講義への応用:マイクロソフトstreamを用いた講義動画の字幕追加編集について、講義への応用が可能となった。日本語で講演してもその内容が英語で字幕となってスライド上で見えるため、大学院の授業の国際化が進む。							
②研究領域								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 45%; text-align: center;">目標・取組</th> <th style="width: 55%; text-align: center;">目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 45%; text-align: center;">関連する 年度計画の番号</th> <th style="width: 55%; text-align: center;">研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</th> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> SDGs推進大学である岡山大学の研究を、がんゲノム医療中核拠点病院・臨床研究中核病院・橋渡し研究戦略的推進プログラムとしての革新的医療技術創出拠点病院である岡山大学病院と連携しながら進める。 ① SDGs達成に向けた研究の取組:事例集を第7次まで発刊している。研究科として取組事例を増やすため、各教室に現在のプロジェクトの提供、新たなプロジェクトの取組を依頼する。 ② がんゲノム医療中核拠点病院・臨床研究中核病院としての活動を岡山大学病院と共に推進する。 ③ 橋渡し研究戦略的推進プログラムの事業を推進し、学内外のシーズの発掘に努める。 ④ 医療系等研究開発戦略委員会:科研費の獲得数を増加させるため、各教室における科研費応募資格者が確実に応募するように働きかける。科研費の応募に関して振り返り添削や予備添削を進める。学内、学外との共同研究のきっかけを作るため、ブレインストーミング(セミナー)を企画する。 ⑤ 業績における国際共著の重要性について研究科内で周知し、研究内容について国際共同研究を促進させる。研究広報で海外での本研究科の知名度を向上させる。 </td> <td style="vertical-align: top;"> ① ミャンマーの政情不安は続いているが、ミャンマーからの留学生の研究科内での教育や研究指導を続けている。現在博士課程に11名が在籍、そのうち9名は岡山で研究を続けている。 ② コロナ禍における医療系学生の経済困難に対する援助:鹿田キャンパスで募った寄付金の中から医療系学生に総額約750万円の援助をし、生活を助け、学修や研究に引き続き専念出来るようにサポートした。 ③ CMA-Okayamaの治験ネットワーク:研究科として協力し、2021年度は22件の治験の依頼を受け7件を受託している。 ④ 新型コロナ関連:文部科学省の「感染症医療人材養成事業」に採択され導入された機器などを利用し、研究科附属の医療教育センター共催で医療人材育成へのVR技術導入のwebセミナーなど多数のセミナーを行った。 特記すべき事として、4月～10月にかけて行われた学生、職員への鹿田及び津島キャンパスでのコロナ対策のワクチン接種が挙げられる。医歯薬学総合研究科に所属する医師、歯科医師、看護師のほぼ全員が総動員され接種を担当、大学内での感染状況を最小限に抑えることができた。医歯薬学総合研究科として保健学研究科と合同で、岡山健康講座を市民向けに2021年9月にオンラインで行った。医学系、歯学系、薬学系、保健学系から合わせて5名の教授に60分ずつの講演を行っていただき、1か月にわたってオンラインで多くの市民に視聴いただいた。2022年も同様の岡山健康講座を予定している。 </td> </tr> </table> </td> <td style="vertical-align: top;"> ① SDGs達成に向けた研究の取組:事例集第8次改訂版に掲載する取組に59件の応募があり、医歯薬学総合研究科としてSDGs達成へ向けて機運が高まっている。 ② 岡山大学病院とともにがんゲノム医療外来、がん遺伝子パネル検査、特定臨床研究を推進する役割を担った。これらの活動は病院の新医療研究開発センター、バイオバンク、ゲノム医療総合推進センターや研究推進課と連携しつつ行っていく。 ③ 岡山大学は2021年12月20日付けで橋渡し研究支援機関の認定を受けた。学内外から応募のあったシーズA 67件、preB 19件、シーズB 4件、preC 9件、シーズC 1件の計100件を審査し、シーズA 27件、preF 5件、シーズC(a) 3件、シーズC(b) 1件、シーズB・F 5件、の計41件を岡山大学拠点シーズとしてAMEDに公募、ヒアリング等の支援を実施した。 ④ 医療系等研究開発戦略委員会:科研費の応募資格者に対して直接声かけをし応募に導いた。振り返り添削ならびに予備添削を行い、採択率の向上に努めた。共同研究につながるブレインストーミングは8月にオンラインで開催し多くの演題が発表され好評であった。発表は当研究科からだけではなく自然科学研究科、環境生命科学科、保健学研究科など多岐にわたった。 ⑤ 国際共著論文:研究科の業績として国際共著論文が重要であることを教授会や学務委員会で周知し、国際共同研究を促進させるよう努めた。各研究分野の教員の選考の際、国際共著論文数を重要な指標としていることを強調した。国際共同研究を増やすために研究科ホームページのリニューアルにあわせて、英語版の充実を図った。 </td> </tr> </table>	目標・取組	目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 45%; text-align: center;">関連する 年度計画の番号</th> <th style="width: 55%; text-align: center;">研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</th> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> SDGs推進大学である岡山大学の研究を、がんゲノム医療中核拠点病院・臨床研究中核病院・橋渡し研究戦略的推進プログラムとしての革新的医療技術創出拠点病院である岡山大学病院と連携しながら進める。 ① SDGs達成に向けた研究の取組:事例集を第7次まで発刊している。研究科として取組事例を増やすため、各教室に現在のプロジェクトの提供、新たなプロジェクトの取組を依頼する。 ② がんゲノム医療中核拠点病院・臨床研究中核病院としての活動を岡山大学病院と共に推進する。 ③ 橋渡し研究戦略的推進プログラムの事業を推進し、学内外のシーズの発掘に努める。 ④ 医療系等研究開発戦略委員会:科研費の獲得数を増加させるため、各教室における科研費応募資格者が確実に応募するように働きかける。科研費の応募に関して振り返り添削や予備添削を進める。学内、学外との共同研究のきっかけを作るため、ブレインストーミング(セミナー)を企画する。 ⑤ 業績における国際共著の重要性について研究科内で周知し、研究内容について国際共同研究を促進させる。研究広報で海外での本研究科の知名度を向上させる。 </td> <td style="vertical-align: top;"> ① ミャンマーの政情不安は続いているが、ミャンマーからの留学生の研究科内での教育や研究指導を続けている。現在博士課程に11名が在籍、そのうち9名は岡山で研究を続けている。 ② コロナ禍における医療系学生の経済困難に対する援助:鹿田キャンパスで募った寄付金の中から医療系学生に総額約750万円の援助をし、生活を助け、学修や研究に引き続き専念出来るようにサポートした。 ③ CMA-Okayamaの治験ネットワーク:研究科として協力し、2021年度は22件の治験の依頼を受け7件を受託している。 ④ 新型コロナ関連:文部科学省の「感染症医療人材養成事業」に採択され導入された機器などを利用し、研究科附属の医療教育センター共催で医療人材育成へのVR技術導入のwebセミナーなど多数のセミナーを行った。 特記すべき事として、4月～10月にかけて行われた学生、職員への鹿田及び津島キャンパスでのコロナ対策のワクチン接種が挙げられる。医歯薬学総合研究科に所属する医師、歯科医師、看護師のほぼ全員が総動員され接種を担当、大学内での感染状況を最小限に抑えることができた。医歯薬学総合研究科として保健学研究科と合同で、岡山健康講座を市民向けに2021年9月にオンラインで行った。医学系、歯学系、薬学系、保健学系から合わせて5名の教授に60分ずつの講演を行っていただき、1か月にわたってオンラインで多くの市民に視聴いただいた。2022年も同様の岡山健康講座を予定している。 </td> </tr> </table>	関連する 年度計画の番号	研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等	SDGs推進大学である岡山大学の研究を、がんゲノム医療中核拠点病院・臨床研究中核病院・橋渡し研究戦略的推進プログラムとしての革新的医療技術創出拠点病院である岡山大学病院と連携しながら進める。 ① SDGs達成に向けた研究の取組:事例集を第7次まで発刊している。研究科として取組事例を増やすため、各教室に現在のプロジェクトの提供、新たなプロジェクトの取組を依頼する。 ② がんゲノム医療中核拠点病院・臨床研究中核病院としての活動を岡山大学病院と共に推進する。 ③ 橋渡し研究戦略的推進プログラムの事業を推進し、学内外のシーズの発掘に努める。 ④ 医療系等研究開発戦略委員会:科研費の獲得数を増加させるため、各教室における科研費応募資格者が確実に応募するように働きかける。科研費の応募に関して振り返り添削や予備添削を進める。学内、学外との共同研究のきっかけを作るため、ブレインストーミング(セミナー)を企画する。 ⑤ 業績における国際共著の重要性について研究科内で周知し、研究内容について国際共同研究を促進させる。研究広報で海外での本研究科の知名度を向上させる。	① ミャンマーの政情不安は続いているが、ミャンマーからの留学生の研究科内での教育や研究指導を続けている。現在博士課程に11名が在籍、そのうち9名は岡山で研究を続けている。 ② コロナ禍における医療系学生の経済困難に対する援助:鹿田キャンパスで募った寄付金の中から医療系学生に総額約750万円の援助をし、生活を助け、学修や研究に引き続き専念出来るようにサポートした。 ③ CMA-Okayamaの治験ネットワーク:研究科として協力し、2021年度は22件の治験の依頼を受け7件を受託している。 ④ 新型コロナ関連:文部科学省の「感染症医療人材養成事業」に採択され導入された機器などを利用し、研究科附属の医療教育センター共催で医療人材育成へのVR技術導入のwebセミナーなど多数のセミナーを行った。 特記すべき事として、4月～10月にかけて行われた学生、職員への鹿田及び津島キャンパスでのコロナ対策のワクチン接種が挙げられる。医歯薬学総合研究科に所属する医師、歯科医師、看護師のほぼ全員が総動員され接種を担当、大学内での感染状況を最小限に抑えることができた。医歯薬学総合研究科として保健学研究科と合同で、岡山健康講座を市民向けに2021年9月にオンラインで行った。医学系、歯学系、薬学系、保健学系から合わせて5名の教授に60分ずつの講演を行っていただき、1か月にわたってオンラインで多くの市民に視聴いただいた。2022年も同様の岡山健康講座を予定している。	① SDGs達成に向けた研究の取組:事例集第8次改訂版に掲載する取組に59件の応募があり、医歯薬学総合研究科としてSDGs達成へ向けて機運が高まっている。 ② 岡山大学病院とともにがんゲノム医療外来、がん遺伝子パネル検査、特定臨床研究を推進する役割を担った。これらの活動は病院の新医療研究開発センター、バイオバンク、ゲノム医療総合推進センターや研究推進課と連携しつつ行っていく。 ③ 岡山大学は2021年12月20日付けで橋渡し研究支援機関の認定を受けた。学内外から応募のあったシーズA 67件、preB 19件、シーズB 4件、preC 9件、シーズC 1件の計100件を審査し、シーズA 27件、preF 5件、シーズC(a) 3件、シーズC(b) 1件、シーズB・F 5件、の計41件を岡山大学拠点シーズとしてAMEDに公募、ヒアリング等の支援を実施した。 ④ 医療系等研究開発戦略委員会:科研費の応募資格者に対して直接声かけをし応募に導いた。振り返り添削ならびに予備添削を行い、採択率の向上に努めた。共同研究につながるブレインストーミングは8月にオンラインで開催し多くの演題が発表され好評であった。発表は当研究科からだけではなく自然科学研究科、環境生命科学科、保健学研究科など多岐にわたった。 ⑤ 国際共著論文:研究科の業績として国際共著論文が重要であることを教授会や学務委員会で周知し、国際共同研究を促進させるよう努めた。各研究分野の教員の選考の際、国際共著論文数を重要な指標としていることを強調した。国際共同研究を増やすために研究科ホームページのリニューアルにあわせて、英語版の充実を図った。
目標・取組	目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)							
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 45%; text-align: center;">関連する 年度計画の番号</th> <th style="width: 55%; text-align: center;">研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</th> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> SDGs推進大学である岡山大学の研究を、がんゲノム医療中核拠点病院・臨床研究中核病院・橋渡し研究戦略的推進プログラムとしての革新的医療技術創出拠点病院である岡山大学病院と連携しながら進める。 ① SDGs達成に向けた研究の取組:事例集を第7次まで発刊している。研究科として取組事例を増やすため、各教室に現在のプロジェクトの提供、新たなプロジェクトの取組を依頼する。 ② がんゲノム医療中核拠点病院・臨床研究中核病院としての活動を岡山大学病院と共に推進する。 ③ 橋渡し研究戦略的推進プログラムの事業を推進し、学内外のシーズの発掘に努める。 ④ 医療系等研究開発戦略委員会:科研費の獲得数を増加させるため、各教室における科研費応募資格者が確実に応募するように働きかける。科研費の応募に関して振り返り添削や予備添削を進める。学内、学外との共同研究のきっかけを作るため、ブレインストーミング(セミナー)を企画する。 ⑤ 業績における国際共著の重要性について研究科内で周知し、研究内容について国際共同研究を促進させる。研究広報で海外での本研究科の知名度を向上させる。 </td> <td style="vertical-align: top;"> ① ミャンマーの政情不安は続いているが、ミャンマーからの留学生の研究科内での教育や研究指導を続けている。現在博士課程に11名が在籍、そのうち9名は岡山で研究を続けている。 ② コロナ禍における医療系学生の経済困難に対する援助:鹿田キャンパスで募った寄付金の中から医療系学生に総額約750万円の援助をし、生活を助け、学修や研究に引き続き専念出来るようにサポートした。 ③ CMA-Okayamaの治験ネットワーク:研究科として協力し、2021年度は22件の治験の依頼を受け7件を受託している。 ④ 新型コロナ関連:文部科学省の「感染症医療人材養成事業」に採択され導入された機器などを利用し、研究科附属の医療教育センター共催で医療人材育成へのVR技術導入のwebセミナーなど多数のセミナーを行った。 特記すべき事として、4月～10月にかけて行われた学生、職員への鹿田及び津島キャンパスでのコロナ対策のワクチン接種が挙げられる。医歯薬学総合研究科に所属する医師、歯科医師、看護師のほぼ全員が総動員され接種を担当、大学内での感染状況を最小限に抑えることができた。医歯薬学総合研究科として保健学研究科と合同で、岡山健康講座を市民向けに2021年9月にオンラインで行った。医学系、歯学系、薬学系、保健学系から合わせて5名の教授に60分ずつの講演を行っていただき、1か月にわたってオンラインで多くの市民に視聴いただいた。2022年も同様の岡山健康講座を予定している。 </td> </tr> </table>	関連する 年度計画の番号	研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等	SDGs推進大学である岡山大学の研究を、がんゲノム医療中核拠点病院・臨床研究中核病院・橋渡し研究戦略的推進プログラムとしての革新的医療技術創出拠点病院である岡山大学病院と連携しながら進める。 ① SDGs達成に向けた研究の取組:事例集を第7次まで発刊している。研究科として取組事例を増やすため、各教室に現在のプロジェクトの提供、新たなプロジェクトの取組を依頼する。 ② がんゲノム医療中核拠点病院・臨床研究中核病院としての活動を岡山大学病院と共に推進する。 ③ 橋渡し研究戦略的推進プログラムの事業を推進し、学内外のシーズの発掘に努める。 ④ 医療系等研究開発戦略委員会:科研費の獲得数を増加させるため、各教室における科研費応募資格者が確実に応募するように働きかける。科研費の応募に関して振り返り添削や予備添削を進める。学内、学外との共同研究のきっかけを作るため、ブレインストーミング(セミナー)を企画する。 ⑤ 業績における国際共著の重要性について研究科内で周知し、研究内容について国際共同研究を促進させる。研究広報で海外での本研究科の知名度を向上させる。	① ミャンマーの政情不安は続いているが、ミャンマーからの留学生の研究科内での教育や研究指導を続けている。現在博士課程に11名が在籍、そのうち9名は岡山で研究を続けている。 ② コロナ禍における医療系学生の経済困難に対する援助:鹿田キャンパスで募った寄付金の中から医療系学生に総額約750万円の援助をし、生活を助け、学修や研究に引き続き専念出来るようにサポートした。 ③ CMA-Okayamaの治験ネットワーク:研究科として協力し、2021年度は22件の治験の依頼を受け7件を受託している。 ④ 新型コロナ関連:文部科学省の「感染症医療人材養成事業」に採択され導入された機器などを利用し、研究科附属の医療教育センター共催で医療人材育成へのVR技術導入のwebセミナーなど多数のセミナーを行った。 特記すべき事として、4月～10月にかけて行われた学生、職員への鹿田及び津島キャンパスでのコロナ対策のワクチン接種が挙げられる。医歯薬学総合研究科に所属する医師、歯科医師、看護師のほぼ全員が総動員され接種を担当、大学内での感染状況を最小限に抑えることができた。医歯薬学総合研究科として保健学研究科と合同で、岡山健康講座を市民向けに2021年9月にオンラインで行った。医学系、歯学系、薬学系、保健学系から合わせて5名の教授に60分ずつの講演を行っていただき、1か月にわたってオンラインで多くの市民に視聴いただいた。2022年も同様の岡山健康講座を予定している。	① SDGs達成に向けた研究の取組:事例集第8次改訂版に掲載する取組に59件の応募があり、医歯薬学総合研究科としてSDGs達成へ向けて機運が高まっている。 ② 岡山大学病院とともにがんゲノム医療外来、がん遺伝子パネル検査、特定臨床研究を推進する役割を担った。これらの活動は病院の新医療研究開発センター、バイオバンク、ゲノム医療総合推進センターや研究推進課と連携しつつ行っていく。 ③ 岡山大学は2021年12月20日付けで橋渡し研究支援機関の認定を受けた。学内外から応募のあったシーズA 67件、preB 19件、シーズB 4件、preC 9件、シーズC 1件の計100件を審査し、シーズA 27件、preF 5件、シーズC(a) 3件、シーズC(b) 1件、シーズB・F 5件、の計41件を岡山大学拠点シーズとしてAMEDに公募、ヒアリング等の支援を実施した。 ④ 医療系等研究開発戦略委員会:科研費の応募資格者に対して直接声かけをし応募に導いた。振り返り添削ならびに予備添削を行い、採択率の向上に努めた。共同研究につながるブレインストーミングは8月にオンラインで開催し多くの演題が発表され好評であった。発表は当研究科からだけではなく自然科学研究科、環境生命科学科、保健学研究科など多岐にわたった。 ⑤ 国際共著論文:研究科の業績として国際共著論文が重要であることを教授会や学務委員会で周知し、国際共同研究を促進させるよう努めた。各研究分野の教員の選考の際、国際共著論文数を重要な指標としていることを強調した。国際共同研究を増やすために研究科ホームページのリニューアルにあわせて、英語版の充実を図った。			
関連する 年度計画の番号	研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等							
SDGs推進大学である岡山大学の研究を、がんゲノム医療中核拠点病院・臨床研究中核病院・橋渡し研究戦略的推進プログラムとしての革新的医療技術創出拠点病院である岡山大学病院と連携しながら進める。 ① SDGs達成に向けた研究の取組:事例集を第7次まで発刊している。研究科として取組事例を増やすため、各教室に現在のプロジェクトの提供、新たなプロジェクトの取組を依頼する。 ② がんゲノム医療中核拠点病院・臨床研究中核病院としての活動を岡山大学病院と共に推進する。 ③ 橋渡し研究戦略的推進プログラムの事業を推進し、学内外のシーズの発掘に努める。 ④ 医療系等研究開発戦略委員会:科研費の獲得数を増加させるため、各教室における科研費応募資格者が確実に応募するように働きかける。科研費の応募に関して振り返り添削や予備添削を進める。学内、学外との共同研究のきっかけを作るため、ブレインストーミング(セミナー)を企画する。 ⑤ 業績における国際共著の重要性について研究科内で周知し、研究内容について国際共同研究を促進させる。研究広報で海外での本研究科の知名度を向上させる。	① ミャンマーの政情不安は続いているが、ミャンマーからの留学生の研究科内での教育や研究指導を続けている。現在博士課程に11名が在籍、そのうち9名は岡山で研究を続けている。 ② コロナ禍における医療系学生の経済困難に対する援助:鹿田キャンパスで募った寄付金の中から医療系学生に総額約750万円の援助をし、生活を助け、学修や研究に引き続き専念出来るようにサポートした。 ③ CMA-Okayamaの治験ネットワーク:研究科として協力し、2021年度は22件の治験の依頼を受け7件を受託している。 ④ 新型コロナ関連:文部科学省の「感染症医療人材養成事業」に採択され導入された機器などを利用し、研究科附属の医療教育センター共催で医療人材育成へのVR技術導入のwebセミナーなど多数のセミナーを行った。 特記すべき事として、4月～10月にかけて行われた学生、職員への鹿田及び津島キャンパスでのコロナ対策のワクチン接種が挙げられる。医歯薬学総合研究科に所属する医師、歯科医師、看護師のほぼ全員が総動員され接種を担当、大学内での感染状況を最小限に抑えることができた。医歯薬学総合研究科として保健学研究科と合同で、岡山健康講座を市民向けに2021年9月にオンラインで行った。医学系、歯学系、薬学系、保健学系から合わせて5名の教授に60分ずつの講演を行っていただき、1か月にわたってオンラインで多くの市民に視聴いただいた。2022年も同様の岡山健康講座を予定している。							
③社会貢献(診療を含む)領域								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 45%; text-align: center;">目標・取組</th> <th style="width: 55%; text-align: center;">目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 45%; text-align: center;">関連する 年度計画の番号</th> <th style="width: 55%; text-align: center;">社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</th> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 社会貢献領域として以下の目標を設定する。 ① 現在ミャンマーが政変状態にある。これまで国立六大学によるグローバル教育・研究の充実・強化への積極的参画の一環として、ミャンマー医療人材育成支援のためのプログラムに参加してきた。その方向性は変わらないが、政情を考慮する必要がある。現在すでに研究科や病院で教育を受けているミャンマーからの留学生の支援を続ける。 ② 大学院生の中にはコロナ禍でアルバイト等が出来なくなり困窮しているものがある。必要に応じて大学あるいは鹿田キャンパスで募った寄付金の中から支援をする。 ③ CMA-Okayamaの治験ネットワークの推進などに研究科として協力する。 ④ 新型コロナに関する情報を病院と共有し、必要な対策を講じる。 </td> <td style="vertical-align: top;"> ① ハラスメント防止への取組:特に教授など管理職の地位にある教職員に取り組んでもらうため、ハラスメント防止講演会を医学系、歯学系、薬学系会議でそれぞれ開催し、医歯薬学総合研究科全体でハラスメント相談員の紹介や相談先を記載したチラシを作成し配布した。その他種々のコンプライアンス関連の講習会・研修会を開催し、アンケートやミニテストを行うことで出席率を高めた。 ② ホームページ改訂:情報がよりビジュアルにわかりやすく伝わるホームページに大幅改訂を行った。ビジターの数が飛躍的に伸びている。さらに英語版を充実させ、国際共同研究のきっかけをつくり、外国人留学生の大学院進学希望者を増やしていく。 ③ 学系間の連携のための体制:拡大部局長室会議、研究科運営会議、は毎月1回、研究科教授会は1年に3回開催し、各学系間の連携を強めることができた。 ④ コロナ禍ということもあるが、ほとんどの会議はオンラインで行われペーパーレス化とし、会議のDx化ができた。また、鹿田キャンパスと津島キャンパスの往復の時間を計算する必要がなくなり、会議の参加者も対面より増えた(出張先や、新幹線の中からも参加出来るようになった)。 ⑤ 安全衛生:月1回の産業医による巡視が行われ、職場環境に問題があれば改善を指示した。 ⑥ 若手教員:外部資金獲得の機会や教育・研究の場を積極的に提供した。研究助教というポジションを研究科にも病院にも設け、若手が経済的に困窮することなく研究できる環境を提供した。 </td> </tr> </table> </td> <td style="vertical-align: top;"> ① ミャンマーの政情不安は続いているが、ミャンマーからの留学生の研究科内での教育や研究指導を続けている。現在博士課程に11名が在籍、そのうち9名は岡山で研究を続けている。 ② コロナ禍における医療系学生の経済困難に対する援助:鹿田キャンパスで募った寄付金の中から医療系学生に総額約750万円の援助をし、生活を助け、学修や研究に引き続き専念出来るようにサポートした。 ③ CMA-Okayamaの治験ネットワーク:研究科として協力し、2021年度は22件の治験の依頼を受け7件を受託している。 ④ 新型コロナ関連:文部科学省の「感染症医療人材養成事業」に採択され導入された機器などを利用し、研究科附属の医療教育センター共催で医療人材育成へのVR技術導入のwebセミナーなど多数のセミナーを行った。 特記すべき事として、4月～10月にかけて行われた学生、職員への鹿田及び津島キャンパスでのコロナ対策のワクチン接種が挙げられる。医歯薬学総合研究科に所属する医師、歯科医師、看護師のほぼ全員が総動員され接種を担当、大学内での感染状況を最小限に抑えることができた。医歯薬学総合研究科として保健学研究科と合同で、岡山健康講座を市民向けに2021年9月にオンラインで行った。医学系、歯学系、薬学系、保健学系から合わせて5名の教授に60分ずつの講演を行っていただき、1か月にわたってオンラインで多くの市民に視聴いただいた。2022年も同様の岡山健康講座を予定している。 </td> </tr> </table>	目標・取組	目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 45%; text-align: center;">関連する 年度計画の番号</th> <th style="width: 55%; text-align: center;">社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</th> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 社会貢献領域として以下の目標を設定する。 ① 現在ミャンマーが政変状態にある。これまで国立六大学によるグローバル教育・研究の充実・強化への積極的参画の一環として、ミャンマー医療人材育成支援のためのプログラムに参加してきた。その方向性は変わらないが、政情を考慮する必要がある。現在すでに研究科や病院で教育を受けているミャンマーからの留学生の支援を続ける。 ② 大学院生の中にはコロナ禍でアルバイト等が出来なくなり困窮しているものがある。必要に応じて大学あるいは鹿田キャンパスで募った寄付金の中から支援をする。 ③ CMA-Okayamaの治験ネットワークの推進などに研究科として協力する。 ④ 新型コロナに関する情報を病院と共有し、必要な対策を講じる。 </td> <td style="vertical-align: top;"> ① ハラスメント防止への取組:特に教授など管理職の地位にある教職員に取り組んでもらうため、ハラスメント防止講演会を医学系、歯学系、薬学系会議でそれぞれ開催し、医歯薬学総合研究科全体でハラスメント相談員の紹介や相談先を記載したチラシを作成し配布した。その他種々のコンプライアンス関連の講習会・研修会を開催し、アンケートやミニテストを行うことで出席率を高めた。 ② ホームページ改訂:情報がよりビジュアルにわかりやすく伝わるホームページに大幅改訂を行った。ビジターの数が飛躍的に伸びている。さらに英語版を充実させ、国際共同研究のきっかけをつくり、外国人留学生の大学院進学希望者を増やしていく。 ③ 学系間の連携のための体制:拡大部局長室会議、研究科運営会議、は毎月1回、研究科教授会は1年に3回開催し、各学系間の連携を強めることができた。 ④ コロナ禍ということもあるが、ほとんどの会議はオンラインで行われペーパーレス化とし、会議のDx化ができた。また、鹿田キャンパスと津島キャンパスの往復の時間を計算する必要がなくなり、会議の参加者も対面より増えた(出張先や、新幹線の中からも参加出来るようになった)。 ⑤ 安全衛生:月1回の産業医による巡視が行われ、職場環境に問題があれば改善を指示した。 ⑥ 若手教員:外部資金獲得の機会や教育・研究の場を積極的に提供した。研究助教というポジションを研究科にも病院にも設け、若手が経済的に困窮することなく研究できる環境を提供した。 </td> </tr> </table>	関連する 年度計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等	社会貢献領域として以下の目標を設定する。 ① 現在ミャンマーが政変状態にある。これまで国立六大学によるグローバル教育・研究の充実・強化への積極的参画の一環として、ミャンマー医療人材育成支援のためのプログラムに参加してきた。その方向性は変わらないが、政情を考慮する必要がある。現在すでに研究科や病院で教育を受けているミャンマーからの留学生の支援を続ける。 ② 大学院生の中にはコロナ禍でアルバイト等が出来なくなり困窮しているものがある。必要に応じて大学あるいは鹿田キャンパスで募った寄付金の中から支援をする。 ③ CMA-Okayamaの治験ネットワークの推進などに研究科として協力する。 ④ 新型コロナに関する情報を病院と共有し、必要な対策を講じる。	① ハラスメント防止への取組:特に教授など管理職の地位にある教職員に取り組んでもらうため、ハラスメント防止講演会を医学系、歯学系、薬学系会議でそれぞれ開催し、医歯薬学総合研究科全体でハラスメント相談員の紹介や相談先を記載したチラシを作成し配布した。その他種々のコンプライアンス関連の講習会・研修会を開催し、アンケートやミニテストを行うことで出席率を高めた。 ② ホームページ改訂:情報がよりビジュアルにわかりやすく伝わるホームページに大幅改訂を行った。ビジターの数が飛躍的に伸びている。さらに英語版を充実させ、国際共同研究のきっかけをつくり、外国人留学生の大学院進学希望者を増やしていく。 ③ 学系間の連携のための体制:拡大部局長室会議、研究科運営会議、は毎月1回、研究科教授会は1年に3回開催し、各学系間の連携を強めることができた。 ④ コロナ禍ということもあるが、ほとんどの会議はオンラインで行われペーパーレス化とし、会議のDx化ができた。また、鹿田キャンパスと津島キャンパスの往復の時間を計算する必要がなくなり、会議の参加者も対面より増えた(出張先や、新幹線の中からも参加出来るようになった)。 ⑤ 安全衛生:月1回の産業医による巡視が行われ、職場環境に問題があれば改善を指示した。 ⑥ 若手教員:外部資金獲得の機会や教育・研究の場を積極的に提供した。研究助教というポジションを研究科にも病院にも設け、若手が経済的に困窮することなく研究できる環境を提供した。	① ミャンマーの政情不安は続いているが、ミャンマーからの留学生の研究科内での教育や研究指導を続けている。現在博士課程に11名が在籍、そのうち9名は岡山で研究を続けている。 ② コロナ禍における医療系学生の経済困難に対する援助:鹿田キャンパスで募った寄付金の中から医療系学生に総額約750万円の援助をし、生活を助け、学修や研究に引き続き専念出来るようにサポートした。 ③ CMA-Okayamaの治験ネットワーク:研究科として協力し、2021年度は22件の治験の依頼を受け7件を受託している。 ④ 新型コロナ関連:文部科学省の「感染症医療人材養成事業」に採択され導入された機器などを利用し、研究科附属の医療教育センター共催で医療人材育成へのVR技術導入のwebセミナーなど多数のセミナーを行った。 特記すべき事として、4月～10月にかけて行われた学生、職員への鹿田及び津島キャンパスでのコロナ対策のワクチン接種が挙げられる。医歯薬学総合研究科に所属する医師、歯科医師、看護師のほぼ全員が総動員され接種を担当、大学内での感染状況を最小限に抑えることができた。医歯薬学総合研究科として保健学研究科と合同で、岡山健康講座を市民向けに2021年9月にオンラインで行った。医学系、歯学系、薬学系、保健学系から合わせて5名の教授に60分ずつの講演を行っていただき、1か月にわたってオンラインで多くの市民に視聴いただいた。2022年も同様の岡山健康講座を予定している。
目標・取組	目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)							
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 45%; text-align: center;">関連する 年度計画の番号</th> <th style="width: 55%; text-align: center;">社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</th> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 社会貢献領域として以下の目標を設定する。 ① 現在ミャンマーが政変状態にある。これまで国立六大学によるグローバル教育・研究の充実・強化への積極的参画の一環として、ミャンマー医療人材育成支援のためのプログラムに参加してきた。その方向性は変わらないが、政情を考慮する必要がある。現在すでに研究科や病院で教育を受けているミャンマーからの留学生の支援を続ける。 ② 大学院生の中にはコロナ禍でアルバイト等が出来なくなり困窮しているものがある。必要に応じて大学あるいは鹿田キャンパスで募った寄付金の中から支援をする。 ③ CMA-Okayamaの治験ネットワークの推進などに研究科として協力する。 ④ 新型コロナに関する情報を病院と共有し、必要な対策を講じる。 </td> <td style="vertical-align: top;"> ① ハラスメント防止への取組:特に教授など管理職の地位にある教職員に取り組んでもらうため、ハラスメント防止講演会を医学系、歯学系、薬学系会議でそれぞれ開催し、医歯薬学総合研究科全体でハラスメント相談員の紹介や相談先を記載したチラシを作成し配布した。その他種々のコンプライアンス関連の講習会・研修会を開催し、アンケートやミニテストを行うことで出席率を高めた。 ② ホームページ改訂:情報がよりビジュアルにわかりやすく伝わるホームページに大幅改訂を行った。ビジターの数が飛躍的に伸びている。さらに英語版を充実させ、国際共同研究のきっかけをつくり、外国人留学生の大学院進学希望者を増やしていく。 ③ 学系間の連携のための体制:拡大部局長室会議、研究科運営会議、は毎月1回、研究科教授会は1年に3回開催し、各学系間の連携を強めることができた。 ④ コロナ禍ということもあるが、ほとんどの会議はオンラインで行われペーパーレス化とし、会議のDx化ができた。また、鹿田キャンパスと津島キャンパスの往復の時間を計算する必要がなくなり、会議の参加者も対面より増えた(出張先や、新幹線の中からも参加出来るようになった)。 ⑤ 安全衛生:月1回の産業医による巡視が行われ、職場環境に問題があれば改善を指示した。 ⑥ 若手教員:外部資金獲得の機会や教育・研究の場を積極的に提供した。研究助教というポジションを研究科にも病院にも設け、若手が経済的に困窮することなく研究できる環境を提供した。 </td> </tr> </table>	関連する 年度計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等	社会貢献領域として以下の目標を設定する。 ① 現在ミャンマーが政変状態にある。これまで国立六大学によるグローバル教育・研究の充実・強化への積極的参画の一環として、ミャンマー医療人材育成支援のためのプログラムに参加してきた。その方向性は変わらないが、政情を考慮する必要がある。現在すでに研究科や病院で教育を受けているミャンマーからの留学生の支援を続ける。 ② 大学院生の中にはコロナ禍でアルバイト等が出来なくなり困窮しているものがある。必要に応じて大学あるいは鹿田キャンパスで募った寄付金の中から支援をする。 ③ CMA-Okayamaの治験ネットワークの推進などに研究科として協力する。 ④ 新型コロナに関する情報を病院と共有し、必要な対策を講じる。	① ハラスメント防止への取組:特に教授など管理職の地位にある教職員に取り組んでもらうため、ハラスメント防止講演会を医学系、歯学系、薬学系会議でそれぞれ開催し、医歯薬学総合研究科全体でハラスメント相談員の紹介や相談先を記載したチラシを作成し配布した。その他種々のコンプライアンス関連の講習会・研修会を開催し、アンケートやミニテストを行うことで出席率を高めた。 ② ホームページ改訂:情報がよりビジュアルにわかりやすく伝わるホームページに大幅改訂を行った。ビジターの数が飛躍的に伸びている。さらに英語版を充実させ、国際共同研究のきっかけをつくり、外国人留学生の大学院進学希望者を増やしていく。 ③ 学系間の連携のための体制:拡大部局長室会議、研究科運営会議、は毎月1回、研究科教授会は1年に3回開催し、各学系間の連携を強めることができた。 ④ コロナ禍ということもあるが、ほとんどの会議はオンラインで行われペーパーレス化とし、会議のDx化ができた。また、鹿田キャンパスと津島キャンパスの往復の時間を計算する必要がなくなり、会議の参加者も対面より増えた(出張先や、新幹線の中からも参加出来るようになった)。 ⑤ 安全衛生:月1回の産業医による巡視が行われ、職場環境に問題があれば改善を指示した。 ⑥ 若手教員:外部資金獲得の機会や教育・研究の場を積極的に提供した。研究助教というポジションを研究科にも病院にも設け、若手が経済的に困窮することなく研究できる環境を提供した。	① ミャンマーの政情不安は続いているが、ミャンマーからの留学生の研究科内での教育や研究指導を続けている。現在博士課程に11名が在籍、そのうち9名は岡山で研究を続けている。 ② コロナ禍における医療系学生の経済困難に対する援助:鹿田キャンパスで募った寄付金の中から医療系学生に総額約750万円の援助をし、生活を助け、学修や研究に引き続き専念出来るようにサポートした。 ③ CMA-Okayamaの治験ネットワーク:研究科として協力し、2021年度は22件の治験の依頼を受け7件を受託している。 ④ 新型コロナ関連:文部科学省の「感染症医療人材養成事業」に採択され導入された機器などを利用し、研究科附属の医療教育センター共催で医療人材育成へのVR技術導入のwebセミナーなど多数のセミナーを行った。 特記すべき事として、4月～10月にかけて行われた学生、職員への鹿田及び津島キャンパスでのコロナ対策のワクチン接種が挙げられる。医歯薬学総合研究科に所属する医師、歯科医師、看護師のほぼ全員が総動員され接種を担当、大学内での感染状況を最小限に抑えることができた。医歯薬学総合研究科として保健学研究科と合同で、岡山健康講座を市民向けに2021年9月にオンラインで行った。医学系、歯学系、薬学系、保健学系から合わせて5名の教授に60分ずつの講演を行っていただき、1か月にわたってオンラインで多くの市民に視聴いただいた。2022年も同様の岡山健康講座を予定している。			
関連する 年度計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等							
社会貢献領域として以下の目標を設定する。 ① 現在ミャンマーが政変状態にある。これまで国立六大学によるグローバル教育・研究の充実・強化への積極的参画の一環として、ミャンマー医療人材育成支援のためのプログラムに参加してきた。その方向性は変わらないが、政情を考慮する必要がある。現在すでに研究科や病院で教育を受けているミャンマーからの留学生の支援を続ける。 ② 大学院生の中にはコロナ禍でアルバイト等が出来なくなり困窮しているものがある。必要に応じて大学あるいは鹿田キャンパスで募った寄付金の中から支援をする。 ③ CMA-Okayamaの治験ネットワークの推進などに研究科として協力する。 ④ 新型コロナに関する情報を病院と共有し、必要な対策を講じる。	① ハラスメント防止への取組:特に教授など管理職の地位にある教職員に取り組んでもらうため、ハラスメント防止講演会を医学系、歯学系、薬学系会議でそれぞれ開催し、医歯薬学総合研究科全体でハラスメント相談員の紹介や相談先を記載したチラシを作成し配布した。その他種々のコンプライアンス関連の講習会・研修会を開催し、アンケートやミニテストを行うことで出席率を高めた。 ② ホームページ改訂:情報がよりビジュアルにわかりやすく伝わるホームページに大幅改訂を行った。ビジターの数が飛躍的に伸びている。さらに英語版を充実させ、国際共同研究のきっかけをつくり、外国人留学生の大学院進学希望者を増やしていく。 ③ 学系間の連携のための体制:拡大部局長室会議、研究科運営会議、は毎月1回、研究科教授会は1年に3回開催し、各学系間の連携を強めることができた。 ④ コロナ禍ということもあるが、ほとんどの会議はオンラインで行われペーパーレス化とし、会議のDx化ができた。また、鹿田キャンパスと津島キャンパスの往復の時間を計算する必要がなくなり、会議の参加者も対面より増えた(出張先や、新幹線の中からも参加出来るようになった)。 ⑤ 安全衛生:月1回の産業医による巡視が行われ、職場環境に問題があれば改善を指示した。 ⑥ 若手教員:外部資金獲得の機会や教育・研究の場を積極的に提供した。研究助教というポジションを研究科にも病院にも設け、若手が経済的に困窮することなく研究できる環境を提供した。							
④管理運営領域								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 45%; text-align: center;">目標・取組</th> <th style="width: 55%; text-align: center;">目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 45%; text-align: center;">関連する 年度計画の番号</th> <th style="width: 55%; text-align: center;">管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</th> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 上記の教育・研究・社会貢献領域の目標達成に向け、組織的に取り組む。 ① 法令遵守の徹底:各種ハラスメント防止のため、種々のコンプライアンス関連の講習会・研修会を実施し、特に管理職の地位にある者に出席を強く要請する。 ② ホームページ改訂:大学院の情報よりわかりやすく伝えるためにホームページを改訂し、ビジターの数を増やすようにする。 ③ 部局運営体制の強化・活性化:拡大部局長室会議、研究科運営会議、研究科教授会などを通じて、各学系との連携を強める。 ④ 会議のDx化:会議はオンラインを中心に行い、ペーパーレスを図る。 ⑤ 安全衛生の配慮:働き方改革を踏まえた職場環境を整える。ストレスチェックや健康診断の受診を計画し、その結果に基づいて、必要な場合は精査を勧める。 ⑥ 研究科の将来を担う若手教員に外部資金獲得の機会や教育・研究の場を積極的に提供し、若手教員の割合が低下しないよう努める。優秀な若手教員を確保するため、テニユア・トラック制、年棒制等の人事制度を充実させる。 </td> <td style="vertical-align: top;"> ① ハラスメント防止への取組:特に教授など管理職の地位にある教職員に取り組んでもらうため、ハラスメント防止講演会を医学系、歯学系、薬学系会議でそれぞれ開催し、医歯薬学総合研究科全体でハラスメント相談員の紹介や相談先を記載したチラシを作成し配布した。その他種々のコンプライアンス関連の講習会・研修会を開催し、アンケートやミニテストを行うことで出席率を高めた。 ② ホームページ改訂:情報がよりビジュアルにわかりやすく伝わるホームページに大幅改訂を行った。ビジターの数が飛躍的に伸びている。さらに英語版を充実させ、国際共同研究のきっかけをつくり、外国人留学生の大学院進学希望者を増やしていく。 ③ 学系間の連携のための体制:拡大部局長室会議、研究科運営会議、は毎月1回、研究科教授会は1年に3回開催し、各学系間の連携を強めることができた。 ④ コロナ禍ということもあるが、ほとんどの会議はオンラインで行われペーパーレス化とし、会議のDx化ができた。また、鹿田キャンパスと津島キャンパスの往復の時間を計算する必要がなくなり、会議の参加者も対面より増えた(出張先や、新幹線の中からも参加出来るようになった)。 ⑤ 安全衛生:月1回の産業医による巡視が行われ、職場環境に問題があれば改善を指示した。 ⑥ 若手教員:外部資金獲得の機会や教育・研究の場を積極的に提供した。研究助教というポジションを研究科にも病院にも設け、若手が経済的に困窮することなく研究できる環境を提供した。 </td> </tr> </table> </td> <td style="vertical-align: top;"> ① ハラスメント防止への取組:特に教授など管理職の地位にある教職員に取り組んでもらうため、ハラスメント防止講演会を医学系、歯学系、薬学系会議でそれぞれ開催し、医歯薬学総合研究科全体でハラスメント相談員の紹介や相談先を記載したチラシを作成し配布した。その他種々のコンプライアンス関連の講習会・研修会を開催し、アンケートやミニテストを行うことで出席率を高めた。 ② ホームページ改訂:情報がよりビジュアルにわかりやすく伝わるホームページに大幅改訂を行った。ビジターの数が飛躍的に伸びている。さらに英語版を充実させ、国際共同研究のきっかけをつくり、外国人留学生の大学院進学希望者を増やしていく。 ③ 学系間の連携のための体制:拡大部局長室会議、研究科運営会議、は毎月1回、研究科教授会は1年に3回開催し、各学系間の連携を強めることができた。 ④ コロナ禍ということもあるが、ほとんどの会議はオンラインで行われペーパーレス化とし、会議のDx化ができた。また、鹿田キャンパスと津島キャンパスの往復の時間を計算する必要がなくなり、会議の参加者も対面より増えた(出張先や、新幹線の中からも参加出来るようになった)。 ⑤ 安全衛生:月1回の産業医による巡視が行われ、職場環境に問題があれば改善を指示した。 ⑥ 若手教員:外部資金獲得の機会や教育・研究の場を積極的に提供した。研究助教というポジションを研究科にも病院にも設け、若手が経済的に困窮することなく研究できる環境を提供した。 </td> </tr> </table>	目標・取組	目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 45%; text-align: center;">関連する 年度計画の番号</th> <th style="width: 55%; text-align: center;">管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</th> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 上記の教育・研究・社会貢献領域の目標達成に向け、組織的に取り組む。 ① 法令遵守の徹底:各種ハラスメント防止のため、種々のコンプライアンス関連の講習会・研修会を実施し、特に管理職の地位にある者に出席を強く要請する。 ② ホームページ改訂:大学院の情報よりわかりやすく伝えるためにホームページを改訂し、ビジターの数を増やすようにする。 ③ 部局運営体制の強化・活性化:拡大部局長室会議、研究科運営会議、研究科教授会などを通じて、各学系との連携を強める。 ④ 会議のDx化:会議はオンラインを中心に行い、ペーパーレスを図る。 ⑤ 安全衛生の配慮:働き方改革を踏まえた職場環境を整える。ストレスチェックや健康診断の受診を計画し、その結果に基づいて、必要な場合は精査を勧める。 ⑥ 研究科の将来を担う若手教員に外部資金獲得の機会や教育・研究の場を積極的に提供し、若手教員の割合が低下しないよう努める。優秀な若手教員を確保するため、テニユア・トラック制、年棒制等の人事制度を充実させる。 </td> <td style="vertical-align: top;"> ① ハラスメント防止への取組:特に教授など管理職の地位にある教職員に取り組んでもらうため、ハラスメント防止講演会を医学系、歯学系、薬学系会議でそれぞれ開催し、医歯薬学総合研究科全体でハラスメント相談員の紹介や相談先を記載したチラシを作成し配布した。その他種々のコンプライアンス関連の講習会・研修会を開催し、アンケートやミニテストを行うことで出席率を高めた。 ② ホームページ改訂:情報がよりビジュアルにわかりやすく伝わるホームページに大幅改訂を行った。ビジターの数が飛躍的に伸びている。さらに英語版を充実させ、国際共同研究のきっかけをつくり、外国人留学生の大学院進学希望者を増やしていく。 ③ 学系間の連携のための体制:拡大部局長室会議、研究科運営会議、は毎月1回、研究科教授会は1年に3回開催し、各学系間の連携を強めることができた。 ④ コロナ禍ということもあるが、ほとんどの会議はオンラインで行われペーパーレス化とし、会議のDx化ができた。また、鹿田キャンパスと津島キャンパスの往復の時間を計算する必要がなくなり、会議の参加者も対面より増えた(出張先や、新幹線の中からも参加出来るようになった)。 ⑤ 安全衛生:月1回の産業医による巡視が行われ、職場環境に問題があれば改善を指示した。 ⑥ 若手教員:外部資金獲得の機会や教育・研究の場を積極的に提供した。研究助教というポジションを研究科にも病院にも設け、若手が経済的に困窮することなく研究できる環境を提供した。 </td> </tr> </table>	関連する 年度計画の番号	管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等	上記の教育・研究・社会貢献領域の目標達成に向け、組織的に取り組む。 ① 法令遵守の徹底:各種ハラスメント防止のため、種々のコンプライアンス関連の講習会・研修会を実施し、特に管理職の地位にある者に出席を強く要請する。 ② ホームページ改訂:大学院の情報よりわかりやすく伝えるためにホームページを改訂し、ビジターの数を増やすようにする。 ③ 部局運営体制の強化・活性化:拡大部局長室会議、研究科運営会議、研究科教授会などを通じて、各学系との連携を強める。 ④ 会議のDx化:会議はオンラインを中心に行い、ペーパーレスを図る。 ⑤ 安全衛生の配慮:働き方改革を踏まえた職場環境を整える。ストレスチェックや健康診断の受診を計画し、その結果に基づいて、必要な場合は精査を勧める。 ⑥ 研究科の将来を担う若手教員に外部資金獲得の機会や教育・研究の場を積極的に提供し、若手教員の割合が低下しないよう努める。優秀な若手教員を確保するため、テニユア・トラック制、年棒制等の人事制度を充実させる。	① ハラスメント防止への取組:特に教授など管理職の地位にある教職員に取り組んでもらうため、ハラスメント防止講演会を医学系、歯学系、薬学系会議でそれぞれ開催し、医歯薬学総合研究科全体でハラスメント相談員の紹介や相談先を記載したチラシを作成し配布した。その他種々のコンプライアンス関連の講習会・研修会を開催し、アンケートやミニテストを行うことで出席率を高めた。 ② ホームページ改訂:情報がよりビジュアルにわかりやすく伝わるホームページに大幅改訂を行った。ビジターの数が飛躍的に伸びている。さらに英語版を充実させ、国際共同研究のきっかけをつくり、外国人留学生の大学院進学希望者を増やしていく。 ③ 学系間の連携のための体制:拡大部局長室会議、研究科運営会議、は毎月1回、研究科教授会は1年に3回開催し、各学系間の連携を強めることができた。 ④ コロナ禍ということもあるが、ほとんどの会議はオンラインで行われペーパーレス化とし、会議のDx化ができた。また、鹿田キャンパスと津島キャンパスの往復の時間を計算する必要がなくなり、会議の参加者も対面より増えた(出張先や、新幹線の中からも参加出来るようになった)。 ⑤ 安全衛生:月1回の産業医による巡視が行われ、職場環境に問題があれば改善を指示した。 ⑥ 若手教員:外部資金獲得の機会や教育・研究の場を積極的に提供した。研究助教というポジションを研究科にも病院にも設け、若手が経済的に困窮することなく研究できる環境を提供した。	① ハラスメント防止への取組:特に教授など管理職の地位にある教職員に取り組んでもらうため、ハラスメント防止講演会を医学系、歯学系、薬学系会議でそれぞれ開催し、医歯薬学総合研究科全体でハラスメント相談員の紹介や相談先を記載したチラシを作成し配布した。その他種々のコンプライアンス関連の講習会・研修会を開催し、アンケートやミニテストを行うことで出席率を高めた。 ② ホームページ改訂:情報がよりビジュアルにわかりやすく伝わるホームページに大幅改訂を行った。ビジターの数が飛躍的に伸びている。さらに英語版を充実させ、国際共同研究のきっかけをつくり、外国人留学生の大学院進学希望者を増やしていく。 ③ 学系間の連携のための体制:拡大部局長室会議、研究科運営会議、は毎月1回、研究科教授会は1年に3回開催し、各学系間の連携を強めることができた。 ④ コロナ禍ということもあるが、ほとんどの会議はオンラインで行われペーパーレス化とし、会議のDx化ができた。また、鹿田キャンパスと津島キャンパスの往復の時間を計算する必要がなくなり、会議の参加者も対面より増えた(出張先や、新幹線の中からも参加出来るようになった)。 ⑤ 安全衛生:月1回の産業医による巡視が行われ、職場環境に問題があれば改善を指示した。 ⑥ 若手教員:外部資金獲得の機会や教育・研究の場を積極的に提供した。研究助教というポジションを研究科にも病院にも設け、若手が経済的に困窮することなく研究できる環境を提供した。
目標・取組	目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)							
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 45%; text-align: center;">関連する 年度計画の番号</th> <th style="width: 55%; text-align: center;">管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</th> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 上記の教育・研究・社会貢献領域の目標達成に向け、組織的に取り組む。 ① 法令遵守の徹底:各種ハラスメント防止のため、種々のコンプライアンス関連の講習会・研修会を実施し、特に管理職の地位にある者に出席を強く要請する。 ② ホームページ改訂:大学院の情報よりわかりやすく伝えるためにホームページを改訂し、ビジターの数を増やすようにする。 ③ 部局運営体制の強化・活性化:拡大部局長室会議、研究科運営会議、研究科教授会などを通じて、各学系との連携を強める。 ④ 会議のDx化:会議はオンラインを中心に行い、ペーパーレスを図る。 ⑤ 安全衛生の配慮:働き方改革を踏まえた職場環境を整える。ストレスチェックや健康診断の受診を計画し、その結果に基づいて、必要な場合は精査を勧める。 ⑥ 研究科の将来を担う若手教員に外部資金獲得の機会や教育・研究の場を積極的に提供し、若手教員の割合が低下しないよう努める。優秀な若手教員を確保するため、テニユア・トラック制、年棒制等の人事制度を充実させる。 </td> <td style="vertical-align: top;"> ① ハラスメント防止への取組:特に教授など管理職の地位にある教職員に取り組んでもらうため、ハラスメント防止講演会を医学系、歯学系、薬学系会議でそれぞれ開催し、医歯薬学総合研究科全体でハラスメント相談員の紹介や相談先を記載したチラシを作成し配布した。その他種々のコンプライアンス関連の講習会・研修会を開催し、アンケートやミニテストを行うことで出席率を高めた。 ② ホームページ改訂:情報がよりビジュアルにわかりやすく伝わるホームページに大幅改訂を行った。ビジターの数が飛躍的に伸びている。さらに英語版を充実させ、国際共同研究のきっかけをつくり、外国人留学生の大学院進学希望者を増やしていく。 ③ 学系間の連携のための体制:拡大部局長室会議、研究科運営会議、は毎月1回、研究科教授会は1年に3回開催し、各学系間の連携を強めることができた。 ④ コロナ禍ということもあるが、ほとんどの会議はオンラインで行われペーパーレス化とし、会議のDx化ができた。また、鹿田キャンパスと津島キャンパスの往復の時間を計算する必要がなくなり、会議の参加者も対面より増えた(出張先や、新幹線の中からも参加出来るようになった)。 ⑤ 安全衛生:月1回の産業医による巡視が行われ、職場環境に問題があれば改善を指示した。 ⑥ 若手教員:外部資金獲得の機会や教育・研究の場を積極的に提供した。研究助教というポジションを研究科にも病院にも設け、若手が経済的に困窮することなく研究できる環境を提供した。 </td> </tr> </table>	関連する 年度計画の番号	管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等	上記の教育・研究・社会貢献領域の目標達成に向け、組織的に取り組む。 ① 法令遵守の徹底:各種ハラスメント防止のため、種々のコンプライアンス関連の講習会・研修会を実施し、特に管理職の地位にある者に出席を強く要請する。 ② ホームページ改訂:大学院の情報よりわかりやすく伝えるためにホームページを改訂し、ビジターの数を増やすようにする。 ③ 部局運営体制の強化・活性化:拡大部局長室会議、研究科運営会議、研究科教授会などを通じて、各学系との連携を強める。 ④ 会議のDx化:会議はオンラインを中心に行い、ペーパーレスを図る。 ⑤ 安全衛生の配慮:働き方改革を踏まえた職場環境を整える。ストレスチェックや健康診断の受診を計画し、その結果に基づいて、必要な場合は精査を勧める。 ⑥ 研究科の将来を担う若手教員に外部資金獲得の機会や教育・研究の場を積極的に提供し、若手教員の割合が低下しないよう努める。優秀な若手教員を確保するため、テニユア・トラック制、年棒制等の人事制度を充実させる。	① ハラスメント防止への取組:特に教授など管理職の地位にある教職員に取り組んでもらうため、ハラスメント防止講演会を医学系、歯学系、薬学系会議でそれぞれ開催し、医歯薬学総合研究科全体でハラスメント相談員の紹介や相談先を記載したチラシを作成し配布した。その他種々のコンプライアンス関連の講習会・研修会を開催し、アンケートやミニテストを行うことで出席率を高めた。 ② ホームページ改訂:情報がよりビジュアルにわかりやすく伝わるホームページに大幅改訂を行った。ビジターの数が飛躍的に伸びている。さらに英語版を充実させ、国際共同研究のきっかけをつくり、外国人留学生の大学院進学希望者を増やしていく。 ③ 学系間の連携のための体制:拡大部局長室会議、研究科運営会議、は毎月1回、研究科教授会は1年に3回開催し、各学系間の連携を強めることができた。 ④ コロナ禍ということもあるが、ほとんどの会議はオンラインで行われペーパーレス化とし、会議のDx化ができた。また、鹿田キャンパスと津島キャンパスの往復の時間を計算する必要がなくなり、会議の参加者も対面より増えた(出張先や、新幹線の中からも参加出来るようになった)。 ⑤ 安全衛生:月1回の産業医による巡視が行われ、職場環境に問題があれば改善を指示した。 ⑥ 若手教員:外部資金獲得の機会や教育・研究の場を積極的に提供した。研究助教というポジションを研究科にも病院にも設け、若手が経済的に困窮することなく研究できる環境を提供した。	① ハラスメント防止への取組:特に教授など管理職の地位にある教職員に取り組んでもらうため、ハラスメント防止講演会を医学系、歯学系、薬学系会議でそれぞれ開催し、医歯薬学総合研究科全体でハラスメント相談員の紹介や相談先を記載したチラシを作成し配布した。その他種々のコンプライアンス関連の講習会・研修会を開催し、アンケートやミニテストを行うことで出席率を高めた。 ② ホームページ改訂:情報がよりビジュアルにわかりやすく伝わるホームページに大幅改訂を行った。ビジターの数が飛躍的に伸びている。さらに英語版を充実させ、国際共同研究のきっかけをつくり、外国人留学生の大学院進学希望者を増やしていく。 ③ 学系間の連携のための体制:拡大部局長室会議、研究科運営会議、は毎月1回、研究科教授会は1年に3回開催し、各学系間の連携を強めることができた。 ④ コロナ禍ということもあるが、ほとんどの会議はオンラインで行われペーパーレス化とし、会議のDx化ができた。また、鹿田キャンパスと津島キャンパスの往復の時間を計算する必要がなくなり、会議の参加者も対面より増えた(出張先や、新幹線の中からも参加出来るようになった)。 ⑤ 安全衛生:月1回の産業医による巡視が行われ、職場環境に問題があれば改善を指示した。 ⑥ 若手教員:外部資金獲得の機会や教育・研究の場を積極的に提供した。研究助教というポジションを研究科にも病院にも設け、若手が経済的に困窮することなく研究できる環境を提供した。			
関連する 年度計画の番号	管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等							
上記の教育・研究・社会貢献領域の目標達成に向け、組織的に取り組む。 ① 法令遵守の徹底:各種ハラスメント防止のため、種々のコンプライアンス関連の講習会・研修会を実施し、特に管理職の地位にある者に出席を強く要請する。 ② ホームページ改訂:大学院の情報よりわかりやすく伝えるためにホームページを改訂し、ビジターの数を増やすようにする。 ③ 部局運営体制の強化・活性化:拡大部局長室会議、研究科運営会議、研究科教授会などを通じて、各学系との連携を強める。 ④ 会議のDx化:会議はオンラインを中心に行い、ペーパーレスを図る。 ⑤ 安全衛生の配慮:働き方改革を踏まえた職場環境を整える。ストレスチェックや健康診断の受診を計画し、その結果に基づいて、必要な場合は精査を勧める。 ⑥ 研究科の将来を担う若手教員に外部資金獲得の機会や教育・研究の場を積極的に提供し、若手教員の割合が低下しないよう努める。優秀な若手教員を確保するため、テニユア・トラック制、年棒制等の人事制度を充実させる。	① ハラスメント防止への取組:特に教授など管理職の地位にある教職員に取り組んでもらうため、ハラスメント防止講演会を医学系、歯学系、薬学系会議でそれぞれ開催し、医歯薬学総合研究科全体でハラスメント相談員の紹介や相談先を記載したチラシを作成し配布した。その他種々のコンプライアンス関連の講習会・研修会を開催し、アンケートやミニテストを行うことで出席率を高めた。 ② ホームページ改訂:情報がよりビジュアルにわかりやすく伝わるホームページに大幅改訂を行った。ビジターの数が飛躍的に伸びている。さらに英語版を充実させ、国際共同研究のきっかけをつくり、外国人留学生の大学院進学希望者を増やしていく。 ③ 学系間の連携のための体制:拡大部局長室会議、研究科運営会議、は毎月1回、研究科教授会は1年に3回開催し、各学系間の連携を強めることができた。 ④ コロナ禍ということもあるが、ほとんどの会議はオンラインで行われペーパーレス化とし、会議のDx化ができた。また、鹿田キャンパスと津島キャンパスの往復の時間を計算する必要がなくなり、会議の参加者も対面より増えた(出張先や、新幹線の中からも参加出来るようになった)。 ⑤ 安全衛生:月1回の産業医による巡視が行われ、職場環境に問題があれば改善を指示した。 ⑥ 若手教員:外部資金獲得の機会や教育・研究の場を積極的に提供した。研究助教というポジションを研究科にも病院にも設け、若手が経済的に困窮することなく研究できる環境を提供した。							